

第 30 回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 本日は、伊藤環境大臣にご臨席いただいた。発災以来、環境省には、被災地のし尿や生活ごみの処理をはじめ、災害廃棄物を早期に撤去するための仮置場の設置・運営などを支援いただいております、心から感謝を申し上げます。

また、一昨日とりまとめられた支援パッケージには、廃棄物処理施設の復旧について、補助率の嵩上げなど財政支援の拡充が盛り込まれた。

さらに先ほど、災害廃棄物の処理に対する十分な財政支援や、能登半島国定公園の被災施設の復旧に対する格別の財政支援などを要望した。大臣からは前向きな回答をいただいたところであり、重ねて感謝を申し上げます。

- 昨日、国には、支援パッケージの裏付けとなる予備費 1, 553 億円の支出を決定いただき、感謝申し上げます。今後は、国・市町・関係団体と連携のうえ、速やかに具体の実行に移していかなければならない。

県庁内の、生活支援、なりわい再建の 2 つのチームが司令塔となり、被災者・被災事業者の声にしっかりと耳を傾けながら対応してください。

- こうした中、1. 5 次避難所であるいしかわ総合スポーツセンターは、避難者のほとんどが高齢者であり、インフルエンザに感染した際の重症化を防いでいく必要がある。

そのため、避難者を対象とした予防接種を行うこととし、2月1日（木）からの開始に向けて、準備を進めている。

- また、日々、避難者の移送が進んでいる2次避難所においては、様々なご要望をいただいております、ここで新たな支援を2つ紹介する。

1つ目は、運転免許証を紛失した方が免許証の再交付手続きを行う際の支援である。金沢市にある県運転免許センターで再交付手続きを行えば即日1時間ほどで、交付が可能であることから、今般、加賀市と小松市の2次避難施設から県運転免許センターへの無料バスを運行することとした。

具体的には、1月30日から2月8日まで、2次避難に関する相談窓口コールセンターで受け付けし、申込状況を踏まえて運行日等を決定する。

2つ目は車を持たずに避難してこられた方への支援である。具体的には、全国でカーシェアリングサービスを展開している「タイムズモビリティ（株）」のご協力により、昨日から、加賀市の2次避難施設「みやびの宿 加賀百万石」において、無料カーシェアサービスを開始した。

医療機関等での受診や各種行政手続き、買い物などの外出にご利用いただきたい。

- 昨日も被災地から多くの要望をいただいた応急仮設住宅についてである。

今月中に、さらに、輪島市の町野小学校グラウンドで81戸、七尾市の能登島市民センターで40戸、能登町の旧白丸小学校グラウンドで32戸を追加着工するとともに、新たに内灘町の向栗崎運動公園で23戸着工することで調整が整った。

これにより、現時点で、今月末までに計1,136戸を着工できることとなり、今月中の目標、1,000戸をクリアした。

具体の着工日が決まり次第、別途、資料提供する。

2. 会議最後の発言

- 一昨日とりまとめられた政府の支援パッケージについては、国・市町・関係団体と連携のうえ、情報収集を進め、可能なものから順次、実行に移してください。また、県や市町で予算措置が必要なものについては、その準備を進めてください。
- 同時に、被災者・被災事業者の声にしっかりと耳を傾け、引き続き、従来の発想にとらわれない、きめ細かな支援に繋げてほしい。
- 昨日、輪島市と珠洲市の避難所などを中心に、現地の状況を確認した。被災者の皆さんは、できるだけ住み慣れた地域での応急仮設住宅の建設を強く望まれている。市町との調整を丁寧に行ってください。

また、そのほかにも、様々な困りごとを直接お聞きした。今後とも、こうした被災者の声を丁寧に聞き取り、被災者の立場に寄り添った対応をお願いしたい。

- 明日は、志賀町と七尾市の避難所や和倉温泉などを中心に、詳しく現地視察する。これを今後の対策に繋げていきたい。